

別記様式第1号（第5条関係）

当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会 開催結果の要旨

会 議 名	第3回 当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会		
日 時	平成27年2月12日（木） 午後1時30分～3時55分	場 所	当尾の郷会館2階 「多目的教室」
出 席 者	委 員	■多田 実（会長）、■石井 好二郎（副会長） ■前田 義之、■吉田 修史、■植村 海宥、□山本 憲市、 ■倉山 美幸、□井上 成美、■西村 正子、■浦辻 長次、 ■福岡 正司、■沢尾 俊和（代理出席：浦 一良） ※□：欠席者	
	その他出席者		
	事 務 局	前川課長、辻主幹、西村係長	
議 題	1. 開会 2. 議事 (1) 協議事項 ・地域の魅力=宝を探すワークショップ（資料1） 3. その他 4. 閉会		
審議結果要旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 議事 (1) 協議事項 ・地域の魅力=宝を探すワークショップ（資料1） 事務局より、資料1を基にワークショップについて説明し、参加委員を2 班に分けてワークショップを行った。 3. その他 ・「新日本歩く道紀行100選シリーズ」に当尾 石仏の道をエントリーして いくことを報告した。 ・次回の委員会は、事務局より後日、通知することとした。 4. 閉会		
	1. 開会 審議結果要旨のとおり。 2. 議事 (1) 協議事項 ・地域の魅力=宝を探すワークショップ（資料1） 審議結果要旨のとおり。		

審議経過要旨

主な意見・質疑等は次のとおり。

(○…質疑・意見、→…質疑に対する返答)

○A班は、当尾の自然に注目し、若い世代である大学との連携とウォーキングやトレイルランニングなど、体を動かすスポーツという2つに大きくグループ分けを行った。

大学連携では、体験型の地産地消や空家利用によるコミュニティ活性化などの意見もあった。

また、被害の大きいイノシシについて、何事においても大きなテーマとなる「食」の視点からの利活用が話題になった。

○地元ならではの魅力を地元ガイドが案内することで新規雇用も生まれる。

○当尾文化祭を通して知り合いや地域の方々の新たな魅力を知った。

○人を受け入れるにはその体制やハイキングであればコースの整備は必要である。

○当尾地域において観光は外せない要素であり、もっと「当尾」をブランド化して全国に発信していくことが大事である。

○ジビエの活用は、免許がないと販売できないなどハードルが高い。活用が容易になればいい。

○B班は、道と地元ならではの2つの視点でグループ分けを行った。

議論は具体的なところに及び、例えばコース整備で邪魔な木があれば、ベンチやチップにして、道に活かすといった意見が出た。また食を通して、イノシシを活かして名物を作り、まちおこしをとといった意見もあった。

道・地元・景観の魅力をあげることが必要である。

○取組の対象を誰にするのか、地元・来訪者の両者が成り立つ関係にしておくことが大事である。

○かつて有名写真家に撮影された場所も、人の手が入らなくなり荒れているほか、約20年前と比較しても、季節毎に案内できた道が失われてきている。

○地元との交流が大事、吊り店発祥の地とも言われているが、そういった名物も高齢化と共に少なくなっている。継承できる仕組みが必要である。

○人に来てもらうことで、地元も野菜で潤うなど、来てもらってお互いが良しの関係が重要である。

○地域内にはプラネタリウムもあるので、夜空が美しく見えるスポットを発掘してもいいのでは。例えば恋人たちの聖地になれば、若者の話題性にもあがってくる。

○地元の方の負担とならない範囲で地元の価値を高める。

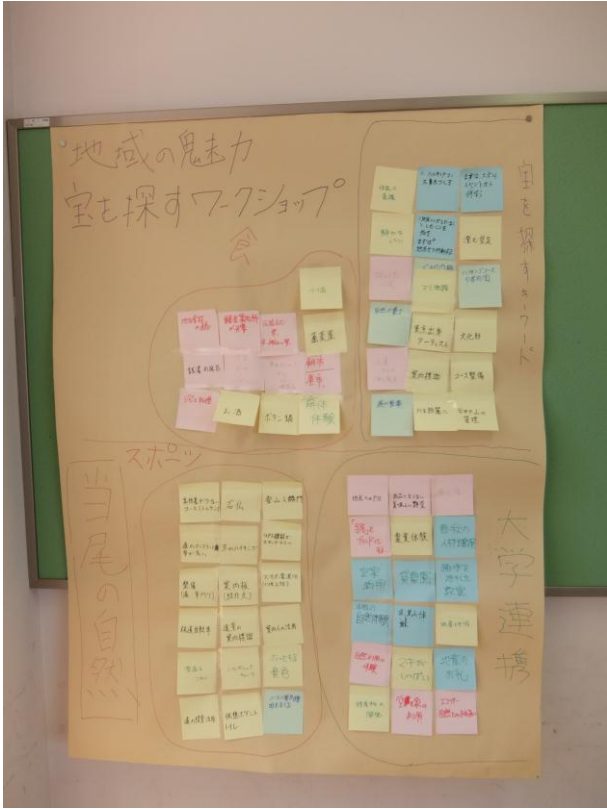
3. その他

審議結果要旨のとおり。

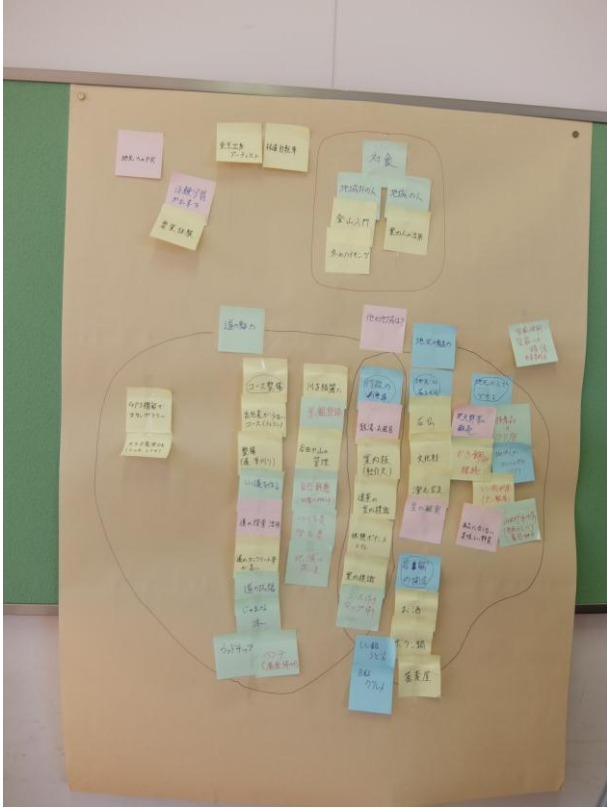
	4. 閉会
その他特記事項	
署名欄	当尾地域の観光資源を活用した地域力活性化検討委員会 会長 _____ 印 委員 _____ 印

(ワークショップの状況)





A班



B班